

## 第4回新処分場併設環境学習施設基本計画検討委員会における 委員からの主な意見について

### 1 委員会の概要

- (1) 日 時 令和5年2月21日(火) 13時30分～14時30分頃
- (2) 議 事 ①第1回～第3回検討委員会検討項目の見直しについて  
②新処分場併設環境学習施設整備の今後の進め方について  
③新処分場併設環境学習施設基本計画概要版(案)について  
④その他
- (3) 会 場 エコフロンティアかさま(笠間市福田165番1)

### 2 主な意見

各委員からの主な意見は次のとおり。

- ① 第1回～第3回検討委員会検討項目の見直しについて [資料1]  
(第1章 環境学習施設の整備方針、第2章 事業計画、第3章 施設整備計画、  
第4章管理運営計画)

#### [七井委員]

- 資料16ページ「地球温暖化への対応」の展示学習の3つ目の○「地球温暖化防止に向けて」の後段部分にある、「かみすわ山荘や諏訪梅林等の周辺地域資源において、再生可能エネルギーを利用した外灯などの整備を検討していく」という内容について、外灯の整備自体は良い取組だが、想定される展示手法例も参照して考えると、19ページの交流啓発活動に記載されている「環境保全活動等を行っている地域住民や環境団体と、企業、大学、NPO等と連携した活動や個々の取り組みなどを紹介する」といった内容に変更した方が良いと思うので意見として述べたい。
- 資料16ページの学習ワードに「脱炭素社会」とあるが、7ページにも同じような学習ワード「脱炭素」があるので、統一した方が良いと思う。

- ② 新処分場併設環境学習施設整備の今後の進め方について [資料2]

意見なし

- ③ 新処分場併設環境学習施設基本計画概要版(案)について [資料3]

#### [大内委員]

- 前回委員会で吉田委員から「管理棟と一体で本施設を造ったらどうか」と話があったと思う。二棟造るよりは、一棟で造った方が予算的には安くなるはず。設計次第で管理棟に不特定多数の人が立ち入らないようにできるので、管理棟と一体で本施設を造った方が整備費を安くできるのではないか。

→ [事務局]

廃棄物処理施設で規制の関係になるが、新処分場と他施設との境界を明確にし、不特定多数の者が施設内に立ち入らないような形にしなくてはならない。管理上のセキュリティも充実させたい考えもある。処分場は、休日や年末年始は稼働させないので、

環境学習施設の開館日に制約が出てくる恐れがあり、別棟の独立した施設で整備しようと考えている。

→〔阿部委員長〕

本施設は現処分場（エコフロンティアかさま）以上に、交流機能として様々な方々がそこで交流する施設にしたいという思いがある。管理棟と一体整備する場合は、新処分場が閉まっている時は人々が集まれないようなことが弊害としてあり、単独の建物の方が、自由に使える可能性があると思う。

### 〔吉田委員〕

- 本施設から新処分場の埋立地が直接見学できるのであれば、本施設を単独で整備しても良いかと思うが、廃棄（施設の解体・撤去）まで考えると、建物が増えれば建物のごみがたくさん出るので、そういう面も考えていただければありがたいと思う。
- 太陽光発電パネルについて、駐車場等にも設置が可能なので、Z E B<sup>※</sup>の建物を造るという観点からも屋根の面積にとらわれずに使えるようご検討いただければと思う。

### 〔松崎委員〕

- 先ほど資料1で示された赤字修正が何か所かあり、例えばこの資料2ページ目の真ん中の中央、「施設における環境・景観への配慮」の中で、想定される取組について、E V<sup>※</sup>や複層ガラス等、付け加えた文言がある。それらを列挙で並べるのであれば、概要版に加えた方が本編と同じ形になるので、ご配慮いただければと思う。

### 〔田辺委員（代理：中川指導主事）〕

- 資料2ページ目の整備イメージについて、1階建てと2階建てのパターンがあるが、今後どのように決定していくか。1階建てと2階建てでは大きく違う。例えば太陽光パネルの数、テラスの有無、2階建てであればトイレを1階と2階に作らないといけない。どのパターンが可能性として高いのか。また、どのように決定されていくのかというのを教えてくださいいただければと思う。

→〔事務局〕

環境学習施設の方から直接埋立地が見られるような配置にしていきたいと考えており、地盤と建物の高さ等も踏まえ検討していくことになる。詳細については、事業団の方で建物の方の設計を進めていくことになるので、その中で反映していくことになる。

※Z E B：Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称で、「ゼブ」と呼ぶ。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物。

※E V：Electric Vehicle（エレクトリック・ビークル）の略称で、バッテリーに蓄えた電気をモーターに供給し、走行のための駆動力を得る自動車のこと。省エネルギー・低公害の次世代自動車の代表的存在として期待されている。